

# 実践記録 シリーズ 79

## 第55回新潟県公民館大会 実践事例発表2から

### 遊びにおいでよ、キッズクラブみつけへ

～広げよう安心の輪、地域ぐるみの子育て～

実生の会家庭班 (ジュニア)  
 平原 富江



#### 1. ～講座を創る、まちを創る～「実生の会」設立の経緯

見附市では「生涯学習ボランティア養成講座」(生ボラ)が、平成6年9月より生涯学習課の主管で始まりまし

- 見附市生涯学習推進基本構想により
- ①市民の多様化、高度化する学習需要に応じていくため。
- ②公民館が提供する学習機会のみならず、市民自らが学習活動の理念を理解する。
- ③各種プログラムを企画、立案、運営する能力を身につけ、学習活動を展開することが望ましい。つまり、市民が市民の視点で作る講座をめざして、それを担う人材を育成しようとの構想により養成講座が始まりました。

平成8年度より主管が中央公民館に移っております。修了生には生涯学習プランナーとしての「プランナー証」が授与されます。

修了生の中から「もう少し続けて活動の場がほしい」との自発的意欲により、平成9年度「実生の会」が結成されました。生ボラ養成講座終了生の中から、希望する者が毎年会員となり、現在40名となり、現在実生の会が企画する講座は、中央公民館講座の約40%を占めています。会の名称「実生」は、草木の種子が芽生えて苗となり、苗から木や草となり、やがて大きな森に成長することにあやかり、会の継続と発展を願ってつけられた名称です。

#### ☆ 現在の活動の実態

##### ○活動内容

- 1 自主講座の企画、運営 (各班ごと)
- 2 生涯学習プランナーとしての研修、勉強会
- 3 公民館事業への参加、協力
- 4 学習を通してのまちづくり
- 5 他市町村との交流

#### 2. 「キッズクラブみつけ」子育て支援への取り組みの動機

私が生涯学習養成講座の受講生になったのは、平成11年でした。

当時NHK特集で学級崩壊が放映されているのを見て、大変ショックを受けたことを覚えております。その後わずか5年の間に犯罪は低年齢化、凶悪化し、児童虐待も年々増加しております。

IT革命の進行に象徴される情報化の影響、携帯電話の普及など、子どもの行動が見えにくくなった現代は、親の不安が増大するばかりです。

平成14年度より、ゆとりある教育という政府の方針のもとに、学校、家庭、地域社会全体の中で子どもたちに「生きる力」をはぐくみ、健やかな成長を促すためとして、学校完全5日制が導入されました。

今、大人が作ってきた社会の環境を見回してみた時、子どもたちにとって安心して過ごせる環境とはとても思われません。子どもの教育は家庭が基本だと思いますが、核家族の増大、三次産業で働く人達の増加を考えたとき、地域の子どもは地域の力で、連携、協力することが必要と考えております。

事業名	対象・人数	実施場所	期間・期日	回数	参加者
実生の会「キッズクラブみつけ」	小学1～6年生30名	見附市中央公民館	毎月第1・3・5土曜日	25回	25～30名
【活動の狙い】					
・共働き家庭や自営業等で、休日を子どもと一緒に休むことができない家庭への子育て支援					
・遊びや体験の中から「生きる力」を学習し、ふるさとの大切さを知る。					
【活動内容と方法】					
・地域の中に「居場所」を作り、地域の中の様々な人的人材とボランティアがリンクして、親たちが安心して働くことができるようサポートする。					

#### ☆子どもたちの現状

毎月第1・3・5土曜日にAM9:00～PM5:00まで、実施計画に基づいて、料理をしたり、工作をしたり、虫を捕りにいったり、16ミリ映画を観たり、雪合戦をしたり、心と体の成長に役立つ体験をたくさんしました。

キッズクラブが大好きで、1回も休まなかった子がいます。

#### ☆事業の募集・啓発の方法

##### 【サポーターの募集】

市の広報・民間新聞にて公募した結果10人の応募者がありました。

#### ☆【遊び道具の募集】

市の広報・民間新聞にて呼びかけた結果、バトミントン、積み木、マンガ本などの寄付がありました。

#### ☆【利用者の募集】

1年目 新規事業のため、PRをすべく見附市内小学校9校にチラシを配布、翌日定員を超える申込み。

2年目、3年目 広報、民間新聞のみに掲載、定員の申込み。

#### ☆事業にあたり工夫、配慮した内容等

先進的に取り組んでいる長岡市の児童クラブを見学した後、必要な書類や備品の準備、サポーターとのコミュニケーション、健康上気配りのいる子どもたちの掌握、事故対策、ローテーション、保険への加入等々、初めての試みであり、何回も何回も打合せを行い、かなりの時間と労力を費やし、万全の準備をしました。

#### ☆実施事業の内容

##### 別紙参照 (省略)

#### ☆参加者等の感想

- ①友達がいっぱいできて、楽しいことがいっぱいあって、メチャクチャうれしい。
- ②映画を観たり、料理を作ったり、工作をしたり、いろいろな友だちと遊べてうれしい。
- ③毎回楽しみにしている。特に出かけるときや、特別な計画がある時はうれしい。
- ④違う学校の友達ができてうれしい。
- ⑤楽しいけれど、中にはちょっと意地悪をしたり、乱暴な子がいて少し困った。

#### ☆保護者の感想

- ①親の仕事上、休んでないため遊んでやれないので、「キッズクラブみつけ」は親たちにとってはとても有難い。
- ②違う学校、違う学年の子と友達になり、帰ってきた時の表情がハツツとしている。
- ③家庭や学校で体験できないことや、教えてあげられないことが多々あり、「キッズクラブ」でいろいろなことを学んでくるので有難い。料理等習ったことを家で作るようになった。

#### ☆事業の成果

- ①市内各学校から集まった子どもたちが、違和感無く溶け込み友達作りをしています。高学年の子どもは、サポーターの手伝いとして成長してきています。毎年30人ずつの受け入れとしても、年々キッズクラブを巣立った子どもたちが増えていき、やがて大きくなった時に、社会教育に関心を持つ子どもたちが出てくるのではないかと期待しています。
- ②公民館はカルチャーセンターの域を出ない、中高年の利用する所というイメージが強かったと思いますが、キッズクラブの子どもたちが利用することにより、他の団体と交流、人材バンクとの交流、地域社会の人達との交流が発生してきています。
- ③子どもたちの作品や装飾により公民館が明るくなりました。

#### 3. 子どもたちの遊びの祭典「キッズフェスティバル」

中央公民館会場に、毎年9月に子どもたちの遊びの祭典「キッズフェスティバル」を開催し、約800人位の子どもたちがやってきます。一日中、見る、聞く、作る、食べる、触る体験を通して、いろいろな人達とかかわり、豊かな人間関係を育んでほしいと願っています。

また、大人になった時、「あの頃は楽しかった」という良い思い出を多く残してやりたいものです。

当日は、スライム、アートバルーン、ビニール凧、折り紙、昔の遊び、お抹茶体験など26コーナー協力団体が集まる予定になっています。

#### 4. 終わりに

今の社会を生きる子どもたちは、学習は他人と競い、勝つための手段としてしか捉えない傾向の中におかれています。大人社会も極めて競争社会へと変容しつつあります。

男と女、障害者、高齢者など、地域に生活する様々な人々が、互いに助け合い、尊重し、協力することで、課題を解決していく共生型社会の実現は、一人一人が自分のできる力を出し合うことから始まると考えます。

「キッズクラブ」というボランティア活動を通して、子どもたち、ボランティアをして下さるサポーターの中・高生のみなさん、一般市民の方、実生の会の人達、多くのすばらしい人達との出会いがありました。私一人だった家庭班もこんなに仲間が増えたことをとてもうれしく思います。人生は人と人との出会いの積み重ねで輪が広がっていきます。そして多くの人達とのネットワークにより、みんなすごい能力を持っていることを知りました。

最後に、これまで活動を支えて下さった公民館職員の皆様にも御礼を申し上げます。